

相双地区の地区における特色ある教育活動について

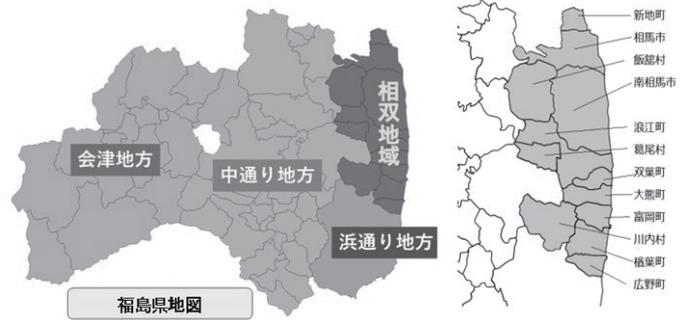
～勤務校での実践事例をもとに～

根本 太郎（檜葉町立檜葉中学校教諭）

永井 崇（相馬市立磯部小学校校長）

1 相双地区とは

福島県は、西側より会津地方、中通り地方、浜通り地方と3つの地方に分けることができます。その中で相双地区とは、右図のように太平洋に面した、福島県の東側に位置しています。さらに、その相双地区を詳しく見てみると、東日本大震災の影響を受け、現在も帰還困難区域（放射線量が非常に高いレベルにあることから、バリケードなど物理的な防護措置を実施し、避難を求めている区域）があり、復興半ばという状況にあります。

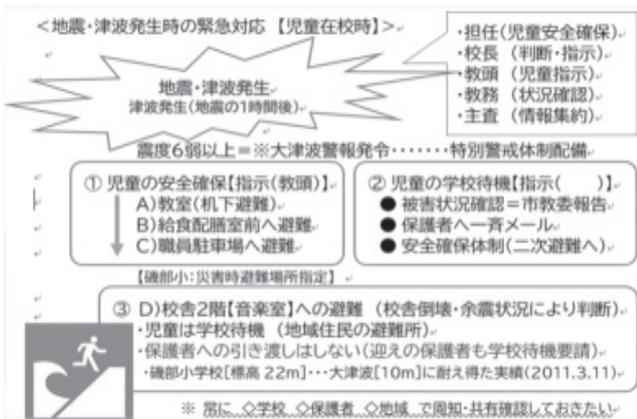


〈福島県の3地方と相馬地方12市町村〉

2 磯部地区の東日本大震災による被害状況と本校の方針

右表のように福島県における犠牲者のうち約半数が相馬地方です。中でも相馬市の犠牲者数の半数以上が本校の位置する磯部地区です。また、本校では児童11名と園児1名の尊い命が失われました。その理由は、地震発生時刻が児童の下校と重なってしまったため、亡くなった児童は、地震後に心配をして迎えに来た保護者等と共に下校をした児童でした。そこで、同じようなことを繰り返さないようにするために、今後の方針として、〈地震・津波発生時の緊急対応〉を作成しました。また、本校は標高22mの場所に位置しているという立地の利点を踏まえ、津波警報が発令されている間は、児童だけでなく、迎えに来た保護者等も共に津波警報が解除されるまでの間、学校の避難場所において待機してもらいます。加えて、

東日本大震災の犠牲者数		磯部小学校の家庭状況	
福島県	2,660人	磯部児童数	117人
相馬地方	1,504人	児童死亡	11人(園児1人)
相馬市	458人	保護者死亡	14人
磯部地区	251人 (相馬市の約55%)	家屋全壊半壊	83戸
磯部(幼・小・中)	18人	県内外避難	27家庭
		応急仮設等	54家庭



同様に、地域の方々にもこのことを周知し、決して自宅には戻らないように確認しています。

3 本校で取り組んでいる防災教育の実際

(1) 常識を覆す避難訓練

個人的にこれまで行って来た避難訓練の常識は以下の通りのものでした。

- | | | |
|-------|--------|----------|
| ・おさない | ・ふざけない | ・走らない |
| ・戻らない | ・話をしない | ・校舎外への避難 |

正直、相双地区に赴任する前は何の疑問も持たず粛々と避難訓練を実施していた一人でした。しかし、本校の避難訓練を体験して感じたことは、正に危機意識が高いということでした。具体的には、本校の避難訓練においては教師や子どもたちが「声を出す」「話をする」ということであります。実際にこの大震災を福島市で体験した私も教室から避難をする際、泣いている子どもたちや怯えている子どもたちに対して、「大丈夫!」「足下に気をつけて!」等、励ましたり注意を呼びかけたりしました。この経験を訓練でも生かし実施しているということです。加えて、校舎や体育館等が耐震構造になっていれば、あえて校舎外に避難する必要がないということもあります。

(2) 防災士の積極的な活用

相馬市には防災士の資格を持つ指導主事(当時)が配置されています。そこで、防災士による授業を教育課程に位置付けています。また、年間に実施している避難訓練の際には基本的に本校に来校していただいています。その中で、避難訓練の様子を参観し、客観的な立場から意見を貰い、次の避難訓練に向けて改善等に役立てています。その一部が以下の通りです。

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| ・子どもが通報者になる | ・子どもたちに出来ることはさせる(整列や物運び等) |
| ・校内での避難訓練のスペシャリストをつくる | |

(3) 小中で9年間を見通した防災教育

本校から200m程離れている磯部中学校と、運動会をはじめ、授業実践等を普段から共に行っています。さらに今年度は新しく炊き出し訓練も加わりました。炊き出し訓練を行ったことで、子どもたちの中に大きな災害が起きた際、どのような動き方をすれば良いか体得した子どももいます。また、この訓練に地域の方々も加わってもらい、子どもたちと同様に火起こしや簡易的な調理等でお手伝いをいただきました。

(4) 防災の集い

3月11日14時46分に本校では、「防災の集い」を行い、敷地内にある亡くなった12名の子どもたちの慰霊碑に向かい地域や学校関係者等の方が訪れ、花を手向けているなど、哀悼の意を表しています。また、地域の方が亡くなった慰霊碑も近くにあるので、全校生で出向いて花を手向けています。

4 相双地区の特色ある総合学習について

(1) 檜葉中学校とは

私の勤務している檜葉町立檜葉中学校は、相双地区南部に位置し、全校生徒45名の学校で教育活動を行なっています。2011年の東日本大震災に伴う原発事故による全町避難を経験し、以前は仮設校舎で授業を行なっていました。6年前から元の場所で教育活動を再開しました。私は1学年担任、社会科と美術科を担当しています。

(2) 総合学習について

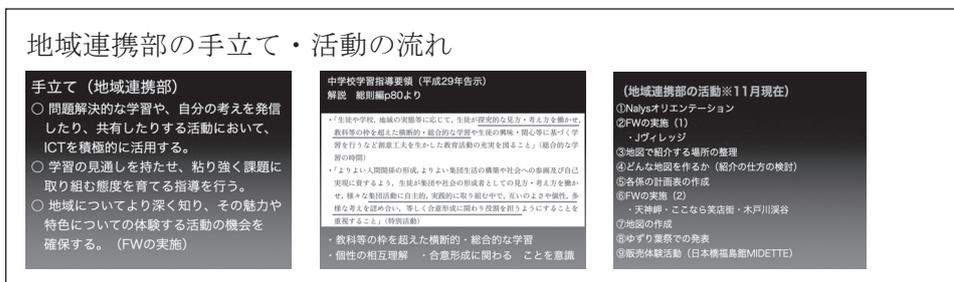
本校では、模擬会社 Nalys の運営を総合学習にて行なっています。5つの部門に分かれて檜葉町の特産物を用いた商品開発を行い、本校の文化祭である「ゆずり葉祭」や日本橋ふくしま館 MIDETTE で実際に販売活動を実施します。



商品開発では、町にゆかりのある企業や事業所と協力して行なっています。今年度の商品は、次の4種類です。また、活動の様子や販売活動について、生徒が運営するSNSを通じて発信しました。



私が担当する1学年の地域連携部は、地域を知り、探究することをねらいに、檜葉町の魅力を発信する「地図づくり」を行いました。今年度はこのような手立てをとり、指導をしました。また、年間の活動はこのような流れで行いました。



まず、生徒が小学校時代、どのような学習活動を行ってきたのか、既習事項の確認を行います。これをもとに、まだ魅力についてあまり知らないJヴィレッジへのフィールドワークを実施しました。その際には、元サッカー選手の方からのサッカー教室や、震災当時のJヴィレッジの様子と復興の歩みについて、ご指導をいただきました。



Jヴィレッジでのフィールドワークを踏まえ、地図に紹介する場所を決定します。生徒同士でのプレゼンの結果、次の5か所を載せた地図にすることが決まりました。また、地図づくりや係分担についても決めた上で、作成に取り掛かりました。

3 紹介したい場所

- 天神岬スポーツ公園
- ここなら笑店街
- 木戸川溪谷
- 道の駅ならば
- Jヴィレッジ の5つに絞る

4 どんな地図を作るか

どんな地図？

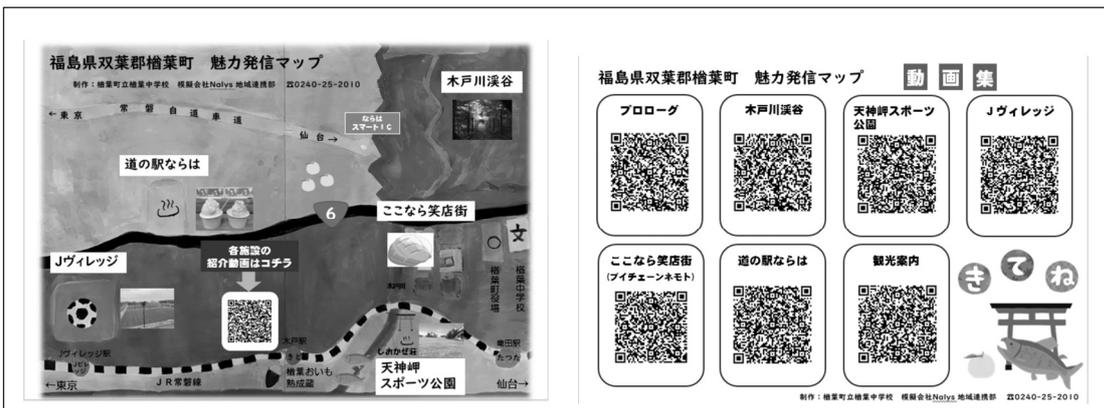
その場の施設ごととその施設の代表的な魅力を一取り出す
写真など載せておきたい魅力的な場所を分けておく
おもしろい子をお客さんでも字が読めなかりたりして読みやすい
地図にするなど整理があるおススメスポット（木戸川渓谷など）
駅から来た人と車で来た人との地図を分ける
おすすめの名産品や特産品などお土産を分けるなどのことを
おもしろい場所や、お土産を分けるなどお土産を分ける
おもしろい場所や、お土産を分けるなどお土産を分ける
おもしろい場所や、お土産を分けるなどお土産を分ける

紹介の仕方

- ・動画を撮ったり、写真を撮ったものを編集して見せる
- ・感想を書く（体験してみても）
- ・SNSで拡散力のある動画を作る
- ・その場所の魅力がダイレクトに伝わるようにする
- ・独自性やユニークなポイントをアピールする
- ・ストーリー性を持たせる
- ・新しい発見 意外性を持たせる

発信の手段・方法の確認

地図づくりで工夫した点として、手書きの地図に檜葉町の特産物や代表する場所を載せました。また裏面には、その場所を紹介するための動画をお見せするためのQRコードを載せました。動画は実際のフィールドワークをもとに、生徒が作成、編集しました。



東京での販売体験活動では、1学年の生徒は、店内へのお客さまの呼び込みや地図の配布を担当しました。街を歩く人たちに熱心に地図を配布したり、商品について説明したりする姿がとても印象的でした。



生徒は、販売体験活動を通しての人の役に立てた嬉しさや活動への積極性や努力の大切さについて感じる事ができた様子が見受けられました。また、自己有用感を感じる事ができた記述も見られました。

成果と課題は次の通りです。本校での教育活動全般を通して身につけた資質・能力が、

生徒の成長につながったのだと強く実感しています。今年度の反省を活かし、系統的な指導を意識しながら、生徒のよりよい成長のため、工夫を凝らしていきたいと思います。

<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 汎用的な資質・能力の育成に繋がった。(特にICT活用能力、文章表現力) ○ 継続的な指導により、自己肯定感、自己有用感の向上にも寄与できた。 ○ 見通しをもって活動することで、毎時間の連続性や関連性を意識して授業構成や指導を工夫することができた。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教師と生徒の間で認識のずれ(特に地域についての理解)があった。 ○ ICTを使用するがあまり、時間がかかってしまう場合もあった。 ○ 教師の見通しの甘さや過行事との兼ね合いで十分に活動の時間を確保できないこともあった。
--	--

5 カリキュラムマネジメントの工夫

(1) はじめに

カリキュラムマネジメントについて、中学校学習指導要領 総則編には、「教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと」とあります。また、次のような捉え方で、教育活動への工夫を行いました。さらに、目的を明確化し、効果的な教育活動を行うため、積極的なICTの活用を併せて行いました。以下において、カリキュラムデザインの考えをもとにした授業改善の実践例を紹介します。

<p>効果を意識して指導</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="background-color: #ccc; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">教師</div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="background-color: #ccc; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">生徒</div> </div> <p>教科横断的な資質・能力の育成へ</p> <p>＋</p> <p>持続可能な形</p>	<p>① 教科横断的な見方・考え方をはたらかせる指導の工夫</p> <p>② 問題解決的な学習の工夫</p> <p>③ 自分ごと化するための工夫</p> <p>①～③を効果的に行うために、ICTを積極的に活用する</p>
---	--

(2) 教科横断的な見方・考え方をはたらかせる工夫

2学年の社会科、歴史的分野 化政文化の授業をより効果的に行うため、美術科「浮世絵はすごい」の授業との関連を図りました。美術的な見方・考え方と歴史的な見方・考え方を組み合わせて鑑賞を行いました。2つの教科の見方・考え方を組み合わせることで、より深い学びにつながるのではないかと思います。

 <p>2年生 美術科 「浮世絵はすごい」と指導の関連を図る</p>	<p>社会×美術の見方・考え方を利用して見つけさせる</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 33%;">色彩の工夫</th> <th style="width: 33%;">構図の工夫</th> <th style="width: 33%;">その他</th> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・浮世絵の色彩は、自然の色彩を再現するのではなく、人々の感情を表現するために使われている。 ・浮世絵の色彩は、時代や場所によって異なる。 ・浮世絵の色彩は、人々の生活や文化を表現するために使われている。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・浮世絵の構図は、人々の生活や文化を表現するために使われている。 ・浮世絵の構図は、時代や場所によって異なる。 ・浮世絵の構図は、人々の感情を表現するために使われている。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・浮世絵の表現方法は、人々の生活や文化を表現するために使われている。 ・浮世絵の表現方法は、時代や場所によって異なる。 ・浮世絵の表現方法は、人々の感情を表現するために使われている。 </td> </tr> </table> <p>歴史的な見方・考え方の観点だと・・・(時代の特色に沿って) ・出来(俗の時代の文化) ・言葉(時代の特色に沿って) ・時間や年代(文化が生まれた時代とは) ※文化の特色について考察させる</p>	色彩の工夫	構図の工夫	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・浮世絵の色彩は、自然の色彩を再現するのではなく、人々の感情を表現するために使われている。 ・浮世絵の色彩は、時代や場所によって異なる。 ・浮世絵の色彩は、人々の生活や文化を表現するために使われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浮世絵の構図は、人々の生活や文化を表現するために使われている。 ・浮世絵の構図は、時代や場所によって異なる。 ・浮世絵の構図は、人々の感情を表現するために使われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浮世絵の表現方法は、人々の生活や文化を表現するために使われている。 ・浮世絵の表現方法は、時代や場所によって異なる。 ・浮世絵の表現方法は、人々の感情を表現するために使われている。
色彩の工夫	構図の工夫	その他					
<ul style="list-style-type: none"> ・浮世絵の色彩は、自然の色彩を再現するのではなく、人々の感情を表現するために使われている。 ・浮世絵の色彩は、時代や場所によって異なる。 ・浮世絵の色彩は、人々の生活や文化を表現するために使われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浮世絵の構図は、人々の生活や文化を表現するために使われている。 ・浮世絵の構図は、時代や場所によって異なる。 ・浮世絵の構図は、人々の感情を表現するために使われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浮世絵の表現方法は、人々の生活や文化を表現するために使われている。 ・浮世絵の表現方法は、時代や場所によって異なる。 ・浮世絵の表現方法は、人々の感情を表現するために使われている。 					

(3) 問題解決的な学習の工夫

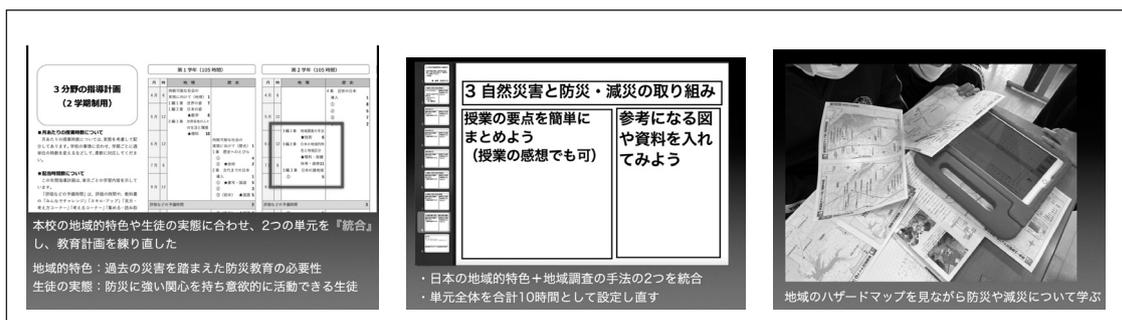
2学年 美術科 デザインの工夫 の授業の際に、亀田製菓株式会社の2つのハッピーターンを比較から、そのデザインの意図やねらいについて思考ツールを用いて考察します。商品の比較から問題意識を引き出し、問いを引き出します。その問いをもとにハッピータ

ーンのマーケティング戦略について考えさせます。この活動から、販売体験活動での「顧客目線」や「企業目線」を意識させ、総合学習との関連を図りました。



(4) 自分ごと化する工夫

本校は東日本大震災による大きな被害を受けたことから防災教育の充実が必要不可欠です。このような地域の実態を踏まえ、社会科において、教育計画を練り直し、指導の改善を図りました。実際の指導においては、実際の檜葉町のハザードマップをもとにした防災・減災についての学習を行いました。このように、地域の実態に合わせた計画に則り、授業を展開することで、生徒が課題に対して主体的に取り組むことにつながりました。



(5) 成果と課題

成果と課題は次の通りです。カリキュラムマネジメントを意識し、ねらいに沿って目的に応じた形で計画的に組み込むことで、特に汎用的な資質・能力の向上や教科横断的な視点での指導の改善に繋げることができました。また、単元のデザインについての考え方を他教科でも応用して行うことができました。一方で、より効果的な指導方法については、今後も、検討の必要があると痛感しました。今後も、長期的な視点で、伸ばしていく資質・能力の向上について考察し、指導の工夫を凝らしていきたいと思えます。

